

Part 13, Vols 49–53: Cultural History, 3rd Series

ISBN 978-4-86340-127-3 • 全5巻セット定価(本体89,000円+税)

スポーツの発展

アメリカにおけるスポーツの発展状況を記した、定評ある初期著作を復刻。

イギリスの影響が色濃く存在した時代からアメリカ性が発揮されて独自の展開を遂げていくまでを概観できるセレクション。

Contents

Volume 49: Henry Hall, ed.

The Tribune Book of Open-Air Sports (1887)

ISBN 978-4-86340-128-0 • 510 pp., ill.

定価(本体19,000円+税)

19世紀後半に広がりを見せた「スポーツ」というものについての情報の欲求を背景に、当時の主要な新聞社 *New York Tribune* が刊行した概論的なスポーツ解説書。

Why We Want to Be Strong • Archery, Old and New • Horsemanship • Games of Ball: baseball, court and lawn tennis, la crosse, football, racket, cricket • Fishing • Trapping • Amateur Photography • Yachting • Swimming • Rowing and Canoeing • Gymnastics • Camping Out • Shot-Gun and Rifle • Croquet • Cycling • The Sports of Winter • Useful Facts • Index • Publishers' Department

Volume 50: William Patten, ed.

The Book of Sport (1901)

ISBN 978-4-86340-129-7 • 424 pp., 1 pl., ill.

定価(本体18,000円+税)

19世紀末アメリカでの、イギリス起源のスポーツの様子を、各種目の専門家が記述。当時のスポーツに対する独特な気分をよく表しています。

Golf: The Women • Golf: The Men • Court-Tennis, Racquets, Hand-Fives and Squash-Tennis • New York and Tuxedo Court-Tennis • Court-Tennis in Boston • Racquets in New York, Boston and Philadelphia • Polo in America and in England • Polo Ponies • Fox-Hunting and Drag-Hunting • Coaching • Automobiles and Automobiling • Lawn-Tennis • Yachting

Volume 51: Ralph Henry Barbour

The Book of School and College Sports (1904)

ISBN 978-4-86340-130-3 • 452 pp., 24 pl., ill.

定価(本体20,000円+税)

アメリカのスポーツを考える上で決して外せない、学生スポーツについての定評ある概説書。

American Football • Baseball • Track and Field Athletics • Lacrosse • Ice Hockey • Lawn Tennis • Appendix: Harvard-Yale Athletic Agreement

Volume 52: Jennie Holliman

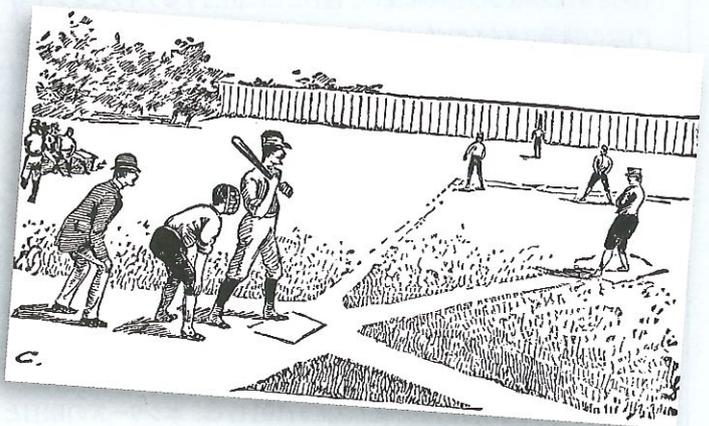
American Sports, 1785–1835 (1931)

ISBN 978-4-86340-131-0 • 230 pp.

定価(本体12,000円+税)

アメリカ独立期のスポーツに関する先駆的研究書。アメリカでスポーツが広まりを見せる前段階にどのような状況であったか、一次資料を幅広く調査して記されています。

Origin of American Sports • Hunting: shooting practices, wild fowl shooting, the ring hunt, fox hunting, deer hunting, game laws • Fishing • Ball Playing • Contests of Skill and Strength: quoits, ninepins, skittles and bowls, dollar pitching, long bullets, archery, swimming, skating • Sleighing • Horse Racing • Cockfighting, Animal Baiting, and Gander Pulling • Gouging and Boxing • Wrestling, Walking, Foot Racing, and Boat Racing • Women's and Children's Sports • Reaction towards Sports • Index



Volume 53: Albert G. Spalding

America's National Game: Historic Facts Concerning the Beginning, Evolution, Development and Popularity of Base Ball, with Personal Reminiscences of Its Vicissitudes, Its Victories and Its Votaries (1911)

ISBN 978-4-86340-132-7 • 562 pp., 6 pl., ill.

定価(本体20,000円+税)

「アメリカの国技」野球について、最初期の大リーガー投手 A. G. スポルディングが詳述。19世紀末から20世紀初めにかけての野球について、本人の回想と織り交ぜながら語られる内容は、具体的で必見。

[Contents include a chronological history of the game from 1845 to 1911 and personal reminiscences of the author.]

アメリカ化の淵源

中尾秀博 ●中央大学教授

アメリカ合衆国の起源に南北ふたつのシナリオがあることは有名な話だ。

1607年を起源とする南部と、1620年を起源とする北部は、それぞれ経済と宗教に駆動されたアングロ・サクソンが、大西洋を越えて最初に到着した地域である。

このたび復刻されるアメリカ研究シリーズ13「スポーツの発展」の第52巻 *American Sports, 1785-1835* (1931) は、建国後の50年を切り取って、若いアメリカのスポーツ事情を手堅く概観している。南北ふたつの起源が両地域のスポーツ振興に与えた影響にも言及があり、(オープンな南部とは対照的に)禁欲で知られる北部のピューリタニズムはスポーツも禁止し、神学校として創設されたハーバード、イエールでは「カレッジ・スポーツ」はあり得なかったという。理性の時代に移ると、たとえばベンジャミン・フランクリンは、得意の合理主義精神で、「全人教育」の手段としてスポーツを奨励していたそうだ。やがて19世紀後半から世紀末に向けて急激に高まるスポーツ情報の需要に応えたのが、第49巻 *The Tribune Book of Open-Air Sports* (1887) になる。

第50巻 *The Book of Sport* (1901) で、テニスやゴルフと並んで重点的に扱われている種目が、「 Polo」や「狐狩り」といった馬上のスポーツである点に、当時のスポーツ事情が表れている。本書では英国起源のものに特化し、英米の差異を記述している。アメリカ性を主張しつつもイギリスを羨んでみたり、発祥の地に敬意を表しながら自国の独自の発展ぶりを自慢したりと、自負と羨望が交錯しているのが、その屈折や揺らぎを読み取るのも興味深い。種目ごとに担当するチャンピオンや専門家の執筆スタイルのヴァリエーションも愉しめるだろう。

第51巻 *The Book of School and College Sports* (1904) の献辞は“Sport for Sport's Sake”となっている。著者 Ralph Henry Barbour が少年向けのスポーツ小説家を本業としていたことを知れば、スポーツへの偏愛ぶりも納得できる。当時の人気を反映して、著述の中心はアメリカン・フットボールとベースボールになっている。フォーメーションの図解やルールの解説は、スポーツ史の資料としても有益だろう。付録のハーバード=イエール対抗戦協定に再録されている出場選手資格が、執拗に学業成果のチェックを詰めている点にピューリタニズム時代の残滓を見いだすことも可能かもしれない。

第53巻 *America's National Game* (1911) は、本シリーズの眼目と呼べるだろう。「アメリカの国技」とはベースボール(本書では“Base Ball”と分かち書きされている)のことで、著者の A. G. Spalding は、

強大なスポーツ用品メーカーの創業者になる前に、最初期の大リーガーだった人物で、ピッチャーとしての生涯勝率79.5%は歴代一位を誇る。

戦場でも、監獄でも、ベースボールに興じる「国民性」を寿ぐスポルディングは、諸外国に目を転じると、“the Orient”では大日本帝国の臣民“the little brown men”のベースボール熱と熟達度に感心し、やがて彼らが因習の軛から解放されることを予告する。プエルトリコやフィリピンなどの“our insular possessions”には、アメリカ兵の手ほぎで現地にベースボールが普及し、「アメリカ化」が完成するパターンを見いだす。商魂逞しいスポルディング社のビジネスは、「国技」化をチャンスとして本土を網羅すると、星条旗の先導のもと、海原を越える。

その後、反復されるこの「アメリカ化」のパターンの淵源は、大西洋を越えたアングロ・サクソンの血脈にあるのだろうか。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】